平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	河川・水路整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	貞方　敦雄			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	整備時期は未定であるが、整備の目安がついた段階で、整備方針等の検討を行う。また、松戸市とは、基本協定の事業期間を変更するが、早期に完了できるよう事業期間を検討する。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	整備時期は未定であるが、整備の目安がついた段階で、整備方針等の検討を行う。
②①に基づく取組み結果	整備の目安がついていないため、整備方針等の検討は行えなかった。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	①主要な水路 ②その他の水路	意図（対象をどうするのか）	浸水被害の軽減 隣接家屋等の安全性確保
②事務事業の概要	流末としての施設の確保及び流下能力の向上等を目的とした暫定改修や、上流域の流末としての機能確保のため、50mm/hrの降雨に対応した改修を行う。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況変化により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。今後下流の整備が進むと、市域の河川施設について将来形での整備が可能となる。依然として浸水被害はあり、要望等が多い。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果：紙敷川改修事業として、松戸市主体によりL＝20.7mの河川改修を実施した。

②成果を表す指標

	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
i	主要な水路の暫定改修実施率	6.50	6.50	6.50	%	業務取得
ii	主要な水路の50mm/hr改修実施率	2.60	2.60	2.60	%	業務取得
iii	浸水面積（河川水路）	31.9	31.9	31.9	ha	業務取得

③事務事業のコスト

	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳 金額（千円）	内容	平成30年度予算
事業費（千円）	2,859	1,482			5,267
国支出金（千円）	0	0	1,482	紙敷川改修事業負担金	0
県支出金（千円）	0	0			0
市債その他（千円）	0	0			0
一般財源（千円）	2,859	1,482			5,267

Ⅳ　評価・検討

①課題	下流河川の整備の目安がついていないため、50mm/hrの降雨に対応した整備に取り組めない。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	6精査・検証
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		
③上記評価の理由	治水対策として有効な事業であることから、費用対効果を考慮した暫定改修については実施する必要があるため。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	・紙敷川改修負担金
②計画に対する事業実績	・紙敷川改修負担金
③達成状況	未完了
④未完了・非着手の理由	紙敷川改修負担金の一部についてH30へ繰越したため。

平成29年度事業費の状況（単位；千円）

計画事業費	予算額			決算額		
4,002	4,002	当初	4,002	1,482	H28からの繰越	0
		H28⇒29繰越	0		現年分	1,482
		補正	0			
		流用・充当	0			

平成30年度への繰越額（単位；千円）：1,694

平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	準用河川整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	貞方　敦雄			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	下流河川の整備が進んできたことにより、上流部でも将来形の整備を行っていく。また、将来形を見据えた暫定的な整備を行うしかない箇所では、将来の整備に後戻りの無いよう効果的な手法の検討を行う。
②①に基づく取組み結果	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に予算の範囲内で整備可能かつ効果のある箇所について選定した。
③平成30年度に取組む改革・改善内容	下流河川の整備が進んできたことにより、上流側でも将来形の整備を行っていく。また、暫定的な整備を行うしかない箇所では、将来的な整備を考慮したうえで、効果的な手法の検討を行う。

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	準用河川	意図（対象をどうするのか）	浸水被害の軽減 隣接家屋等の安全性確保
②事務事業の概要	流下能力の向上と護岸の保護を目的とした暫定改修や、50mm/hrの降雨に対応した改修などの計画策定を行い、上下流の状況を考慮し段階的な河川の改修を行う。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況変化により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。下流側の整備が進んできている場所もあり、市域の河川整備が可能な場所もある。依然として浸水被害はあり、要望等が多い。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果

・二和川護岸改修工事（第30期）において、L=8．2mを改修した。
・二和川バイパス整備工事にて、L＝42mを整備した。

②成果を表す指標

	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
i	暫定改修実施率	21.08	21.70	21.78	%	業務取得
ii	50mm/hr改修実施率	11.42	11.42	11.42	%	業務取得
iii	浸水面積（1級河川、準用河川）	81.5	81.5	81.5	ha	業務取得

③事務事業のコスト

	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳		平成30年度予算
			金額（千円）	内容	
事業費（千円）	137,227	105,124			623,907
国支出金（千円）		25,000	47,354	二和川ﾊﾞｲﾊﾟｽ整備工事	157,405
県支出金（千円）			15,931	二和川護岸改修工事(30期)	0
市債その他（千円）	51,900	79,103			434,034
一般財源（千円）	85,327	1,021			32,468

Ⅳ　評価・検討

①課題	河川改修は下流から行うのが原則であるため、現時点で最も効果のある箇所を選定し、将来的な整備を考慮して実施する必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	浸水被害により、市民の生命・財産に被害が及ぶ恐れがあるため、速やかに河川改修を行う必要性があるため。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	二和川護岸改修工事(第30期)、二和川バイパス整備工事、二和川護岸改修工事（第31期）、二和川バイパス整備工事（第2期）
②計画に対する事業実績	二和川護岸改修工事（第30期）、二和川バイパス整備工事を完了した。
③達成状況	未完了
④未完了・非着手の理由	二和川護岸改修工事（第31期）、二和川ﾊﾞｲﾊﾟｽ整備（第2期）工事はH30へ繰越したため。

平成29年度事業費の状況（単位；千円）

計画事業費	予算額			決算額		
333,710	494,910	当初	333,710	105,124	H28からの繰越	70,656
		H28⇒29繰越	91,148		現年分	34,468
		補正	70,227			
		流用・充当	−175			

平成30年度への繰越額（単位；千円）　367,524

平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	地域排水整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	貞方　敦雄			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	浸水被害の軽減のため、過年度から進めている箇所の整備の進捗を図るとともに、現時点で可能な最も効果のある整備手法の選定を行う。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	過年度から進めている浸水箇所の整備の進捗を図るとともに、現時点で可能な、最も効果のある場所を選定する。
②①に基づく取組み結果	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に整備可能かつ効果のある箇所について選定した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	地域排水施設	意図（対象をどうするのか）	浸水被害の軽減
②事務事業の概要	浸水被害の直接的な原因が地域排水施設の能力不足や未整備であるものについて、下流への影響を考慮しつつ、河川・水路までの施設整備を行う。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況変化により、雨水の流出量が増加し、接続する河川・水路の施設能力を超えるようになった。今後、下流整備の進捗により、市域の河川施設の将来形での整備が可能となる。依然として浸水被害はあり、要望等が多い。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果

・鎌ケ谷二丁目地区地域排水整備工事（第3期）にて95mの整備を行った。
・道野辺中央五丁目地区地域排水整備工事にて延長約80mの整備を行った。
・浸透桝設置モニター工事にて浸透桝を17基設置した。

②成果を表す指標

	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
i	整備工事完了・着手箇所数	21	21	21	箇所	業務取得
ii	浸水面積（地域排水）	10.1	10.1	10.1	ha	業務取得
iii	浸透桝設置基数	6,679	6,781	6,957	基	業務取得

③事務事業のコスト

	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳		平成30年度予算
事業費（千円）	78,686	28,376	金額（千円）	内容	94,389
国支出金（千円）	0	0	14,031	鎌ケ谷二丁目地区地域排水整備工事（第3期）	0
県支出金（千円）	0	0	5,374	道野辺中央五丁目地区地域排水整備工事	0
市債その他（千円）	41,700	14,400	1,050	浸透桝設置モニター工事	64,400
一般財源（千円）	36,986	13,976			29,989

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に整備可能かつ効果のある場所を選定しなければならない。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	治水対策として有効な事業であることから、放流先の整備状況や費用対効果を考慮し事業を進める必要があるため。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	鎌ケ谷二丁目地区地域排水整備工事、道野辺中央五丁目地区地域排水整備工事、馬込沢地区ポンプ設置工事、浸透桝設置モニター工事、東道野辺五丁目地区地域排水整備工事設計委託
②計画に対する事業実績	鎌ケ谷二丁目地区地域排水整備工事、道野辺中央五丁目地区地域排水整備工事、浸透桝設置モニター工事を完了した。
③達成状況	未完了
④未完了・非着手の理由	馬込沢地区ポンプ設置工事、東道野辺五丁目地区地域排水整備工事設計委託はH30へ繰越したため。

平成29年度事業費の状況（単位；千円）

計画事業費	予算額			決算額		
54,046	52,750	当初	54,046	28,376	H28からの繰越	0
		H28⇒29繰越	0		現年分	28,376
		補正	0			
		流用・充当	−1,296			
平成30年度への繰越額（単位；千円）			11,202			

平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	雨水貯留池整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	貞方　敦雄			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	過年度から進めている貯留池の整備の進捗を図るとともに、現時点で可能な、最も効果のある箇所の選定を行う。
②①に基づく取組み結果	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に整備可能かつ効果のある箇所について選定した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	雨水貯留池	意図（対象をどうするのか）	河川の流量の調整を行う。 雨水の流出を抑制する。
②事務事業の概要	浸水被害の軽減のために必要な、河川調節池の整備と流出抑制を目的とした貯留池の整備を行う。整備にあたっては、河川の整備計画との整合を図る。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況変化により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。今後、下流整備の進捗により、市域の河川施設の将来形での整備が可能となる。依然として浸水被害はあり、要望等が多い。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果

・南初富二丁目貯留池整備工事に伴う家屋等事前調査８棟を実施した。
・南初富二丁目貯留池整備工事（継続費）を着手した。
・串崎新田貯留池整備事業に伴う用地測量０．３７haを実施した。

②成果を表す指標

	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
i	河川調節池の暫定整備率	85.71	85.71	85.71	%	業務取得
ii	河川調節池の整備率	57.14	57.14	57.14	%	業務取得
iii	貯留量	40,421	40,421	40,421	m3	業務取得

③事務事業のコスト

	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳		平成30年度予算
			金額（千円）	内容	
事業費（千円）	75,453	5,792			129,600
国支出金（千円）	0	0	3,273	南初富二丁目貯留池整備工事に伴う家屋事前調査	0
県支出金（千円）	0	0	2,322	串崎新田貯留池整備事業に伴う用地測量委託	0
市債その他（千円）	51,500	1,300			97,200
一般財源（千円）	23,953	4,492			32,400

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に整備可能かつ効果のある場所を選定しなければならない。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	放流先の河川整備が進まない中で、浸水被害の軽減を図るには、貯留池を整備することが最善の治水対策と考えられるため。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	南初富二丁目貯留池整備工事（継続費）、南初富二丁目貯留池整備工事に伴う家屋事前調査委託、串崎新田貯留池整備事業に伴う用地測量委託
②計画に対する事業実績	南初富二丁目貯留池整備工事に伴う家屋事前調査委託、串崎新田貯留池整備事業に伴う用地測量委託を完了した。
③達成状況	未完了
④未完了・非着手の理由	南初富二丁目貯留池整備工事はH30へ繰越したため。

平成29年度事業費の状況（単位；千円）

計画事業費	予算額			決算額		
44,990	46,460	当初	44,990	5,792	H28からの繰越	0
		H28⇒29繰越	0		現年分	5,792
		補正	0			
		流用・充当	1,470			
平成30年度への繰越額（単位；千円）			40,000			

平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	主要市道整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	貞方　敦雄			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	事業量を拡大するため、国の交付金の導入を積極的に図る。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	国の交付金を活用し事業を進めるとともに、用地取得済個所については簡易舗装を行い、歩行者空間を確保する。
②①に基づく取組み結果	社会資本整備総合交付金を導入した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	主要市道	意図（対象をどうするのか）	測量、設計、用地補償、工事を行う。
②事務事業の概要	安全で快適な道路網整備のため、主要市道における歩道の整備、危険箇所の線形改良、排水整備、舗装改良を実施し、歩行者等の安全と交通の円滑化を図る。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	事業開始前は、主要市道でも歩道が無く交通量に見合った幅員や舗装となっていなかった。住民の要望が満足となるよう本事業を推進する。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	主要市道の舗装改良、排水整備及び用地取得を実施した。 市道33号線舗装改良工事（L=229.0m）、市道19号線舗装改良工事（L=166.7m）、市道22号線舗装改良工事（L=179.5m）、市道33号線排水整備工事（L=46.5m）、市道26号線用地取得（A=346.89㎡）

②成果を表す指標		指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i	工事延長	2,362	1,068	622	m	業務取得
	ii	工事延長【平成23年度から累計】	5,726	6,794	7,416	m	業務取得
	iii	「道路の状況」不満足度	–	–	–	%	市民意識調査

③事務事業のコスト		平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳		平成30年度予算
事業費（千円）		289,032	81,541	金額（千円）	内容	132,425
	国支出金（千円）	80,315	35,918	18,429	市道33号線舗装改良工事	67,729
	県支出金（千円）			12,623	市道19号線舗装改良工事	
	市債その他（千円）	107,300	26,400	10,022	市道22号線舗装改良工事	53,081
	一般財源（千円）	101,417	19,223	9,289	市道26号線用地購入費	11,615

Ⅳ　評価・検討

①課題	市の主要な道路でも、歩道が無い箇所や狭い箇所が多く、交通量に見合った幅員や舗装構成になっていない。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	7拡充
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		
③上記評価の理由	市民意識調査の「道路の状況」不満足度を下げるため、主要市道の整備は不可欠である。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成29年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成29年度の計画	舗装改良工事、軽井沢周回道路第2期整備事業、用地取得	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	舗装改良工事、軽井沢周回道路第2期整備事業、用地取得	124,848	139,110	当初	124,848	81,541	H28からの繰越 14,986
③達成状況	未完了			H28⇒29繰越	14,986		
				補正			現年分 66,555
④未完了・非着手の理由	用地取得に係る業務が年度内に完了しなかったため。			流用・充当	−724		
		平成30年度への繰越額（単位；千円）					5,697

平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	交差点改良事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	貞方　敦雄			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	市道22号線交差点改良について、引き続き交差点部の路線測量を実施する。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	交差点の安全性を早期に向上させるため、工事予定箇所の早期発注を行う。
②①に基づく取組み結果	市道22号線交差点部の路線測量を実施した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	主要市道の交差点	意図（対象をどうするのか）	交差点の改良による安全性の向上・交通渋滞の緩和
②事務事業の概要	安全で快適な道路網整備のため、主要な交差点の右折車線、歩道の整備、交差点形状の改良を行い交通渋滞の緩和、交差点付近の安全性の向上を図る。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	視界が悪く、歩行者が横断待ちするためのスペースの無い危険な交差点や、自動車交通量の増加に伴い、渋滞が発生している交差点がある。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	市道22号線交差点部の路線測量を実施したほか、市道3・4号線交差点の予備設計を実施し道路法第95条の2に基づく協議を行い、買収予定地の用地測量を実施した。

②成果を表す指標

	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
i	工事実施箇所（累計）	5	5	5	箇所	業務取得
ii	「道路の状況」不満足度	—	—	—	%	市民意識調査
iii						

③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳		平成30年度予算
事業費（千円）	2,621	3,370	金額（千円）	内容	31,015
国支出金（千円）			2,603	市道22号線交差点路線測量委託	
県支出金（千円）			324	市道3・4号線交差点予備設計委託	
市債その他（千円）			357	市道3・4号線交差点設計協議委託	
一般財源（千円）	2,621	3,370	86	市道3・4号線用地測量委託	31,015

Ⅳ　評価・検討

①課題	幅員が狭く見通しの悪い市道の交差点が多い。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	7拡充
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		
③上記評価の理由	交差点改良の要望が多く、市民の安全のため早期に交差点改良を行う必要があるため。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	市道22号線路線測量
②計画に対する事業実績	市道22号線路線測量、市道3・4号線予備設計委託及び用地測量
③達成状況	完了
④未完了・非着手の理由	

平成29年度事業費の状況（単位；千円）

計画事業費	予算額			決算額		
3,000	3,370	当初	3,000	3,370	H28からの繰越	0
		H28⇒29繰越				
		補正			現年分	3,370
		流用・充当	370			
平成30年度への繰越額（単位；千円）						0

平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	一般市道整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	貞方　敦雄			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	コスト縮減のための整備手法の更なる検討。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	事業効果の高い一般市道を選定し、効率的に工事を実施する。
②①に基づく取組み結果	設計比較及び再生材を使用してコスト縮減を図った。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	一般市道	意図（対象をどうするのか）	安全でゆとりのある道路に整備する。
②事務事業の概要	道路排水施設の整備、舗装新設、狭あい路線の拡幅を行い地域住民の利便性と生活環境の向上を図る。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	生活道路となる一般道路が未整備で、舗装整備や道路排水整備の必要があります。住民の生活環境が向上するよう本事業を推進する。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	一般市道の排水整備、舗装新設及び現況測量を実施した。 市道3704号線舗装新設工事（L=74.3m）、市道4333号線排水整備工事（L=53.6m）、市道2107号線現況測量委託（L=694m）

②成果を表す指標

	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
i	工事延長	164	625	128	m	業務取得
ii	工事延長【平成23年度から累計】	2,618	3,243	3,371	m	業務取得
iii	「道路の状況」不満足度	–	–	–	%	市民意識調査

③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳		平成30年度予算
事業費（千円）	43,850	14,307	金額（千円）	内容	19,000
国支出金（千円）	3920		6,023	市道3704号線舗装新設工事	
県支出金（千円）			5,020	市道4333号線排水整備工事	
市債その他（千円）	2400	9,900	2,192	市道2107号線現況測量委託	12,600
一般財源（千円）	37,530	4,407			6,400

Ⅳ　評価・検討

①課題	道路排水施設の未整備箇所、舗装の不良箇所が多い。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	7拡充
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		
③上記評価の理由	市民意識調査の「道路の状況」不満足度を下げるため、一般市道の整備は不可欠である。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	舗装等整備、現況測量
②計画に対する事業実績	市道3704号線舗装新設工事、市道4333号線排水整備工事、市道2107号線現況測量委託
③達成状況	完了
④未完了・非着手の理由	

平成29年度事業費の状況（単位；千円）

計画事業費	予算額			決算額		
31,000	30,471	当初	31,000	14,307	H28からの繰越	0
		H28⇒29繰越			現年分	14,307
		補正				
		流用・充当	−529			
平成30年度への繰越額（単位；千円）				0		

平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	私道整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	貞方　敦雄			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	平成２７年度の私道舗装整備要綱の改正により、舗装整備工事に加え舗装補修工事についても実施する。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	整備要綱の改正により、新規舗装だけでなく、補修工事についても対象となったことから、広報等により広く市民に周知していく。
②①に基づく取組み結果	舗装整備工事及び舗装補修工事を実施した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	私道	意図（対象をどうするのか）	舗装整備工事、舗装補修工事を行う。
②事務事業の概要	未舗装私道の舗装及び舗装済み私道の補修を推進し、地域住民の利便性と生活環境の向上を図る。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	事業開始当初は多くの私道が未舗装で日々の生活や環境・衛生面に悪影響を及ぼしていたが、本事業の推進により未舗装区間が少なくなってきた。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	舗装整備工事及び舗装補修工事を実施した。 整備工事（L=29.5m）、補修工事（L=278.5m）

②成果を表す指標

	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
i	工事延長	0	355	308	m	業務取得
ii	工事延長【平成23年度から累計】	898	1,253	1,561	m	業務取得
iii	「道路の状況」不満足度	—	—	—	%	市民意識調査

③事務事業のコスト

	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳 金額（千円）	内容	平成30年度予算
事業費（千円）	8,698	4,843			530
国支出金（千円）			1,199	舗装整備工事	
県支出金（千円）			3,634	舗装補修工事	
市債その他（千円）					
一般財源（千円）	8,698	4,843			530

Ⅳ　評価・検討

①課題	私道舗装整備要綱の見直しを図り、補修工事についても実施することになったことから、この制度を広く市民に周知すること。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	2普通	ⅲ公平性	2普通	ⅴ総合評価	6精査・検証
	ⅱ有効性	2普通	ⅳ効率性	2普通		
③上記評価の理由	公共性の高い私道もあることから、事業を進めていく必要があるため。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	私道組合（舗装整備工事、舗装補修工事）
②計画に対する事業実績	私道組合（舗装整備工事、舗装補修工事）
③達成状況	完了
④未完了・非着手の理由	

平成29年度事業費の状況（単位；千円）

計画事業費	予算額			決算額		
6,700	6,374	当初	6,700	4,843	H28からの繰越	0
		H28⇒29繰越			現年分	4,843
		補正				
		流用・充当	−326			
平成30年度への繰越額（単位；千円）				0		

平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	通学路整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	道路河川整備課			
施策	133児童・生徒の健康と安全の確保	担当課室長	貞方　敦雄			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	歩道整備に向け引き続き市道1号線歩道部の用地取得を実施し、市道49号線について修正測量を実施する。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	優先順位を見極めながら、用地取得を進めていく。
②①に基づく取組み結果	市道49号線の修正測量を実施した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	通学路に指定されている市道	意図（対象をどうするのか）	児童生徒が安全に登下校できるようにする。
②事務事業の概要	児童・生徒が安全に通学できるよう、歩道のない通学路に歩道を整備し、登下校における安全性の向上を図る。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	平成24年度に実施した緊急合同点検により対策が必要な通学路を抽出し、通学路の拡幅や歩道を確保し登下校時における児童生徒の安全を図る。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	市道1号線に係る物件調査及び不動産鑑定委託を実施した。 市道49号線の修正測量を実施した。（測量延長L=770m、現地測量A=4,000㎡）

②成果を表す指標		指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i	学校災害件数の割合	6.3	6.3	6.0	%	業務取得
	ii	事業費【平成24年度からの累計】	52,437	58,939	65,863	千円	決算書
	iii	工事延長【累計】	95	115	115	m	業務取得

③事務事業のコスト		平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳		平成30年度予算
事業費（千円）		6,502	6,924	金額（千円）	内容	113,106
	国支出金（千円）		1,700	1,458	市道49号線現況修正測量委託	55,121
	県支出金（千円）					
	市債その他（千円）		1,200			40,500
	一般財源（千円）	6,502	4,024			17,485

Ⅳ　評価・検討

①課題	道路の拡幅等中長期的な時間を要する要望に対しては、まずは代替的な対策で対応せざるを得ない。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	7拡充
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		
③上記評価の理由	児童・生徒の通学路の安全性を早期に向上させる必要があるため。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成29年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成29年度の計画	市道1号線用地取得、市道49号線修正測量	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	市道1号線物件調査及び不動産鑑定委託、市道49号線修正測量	60,005	61,215	当初	60,005	6,924	H28からの繰越　0
③達成状況	未完了			H28⇒29繰越			現年分　6,924
④未完了・非着手の理由	用地取得に至らなかったため。			補正			
				流用・充当	1,210		
		平成30年度への繰越額（単位；千円）			54,281		

平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	都市計画道路3・4・5号船橋我孫子バイパス線整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	貞方　敦雄			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	境界が確定となるよう事業主体である千葉県と連携を図っていき、引き続き用地交渉を実施する。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	用地に関する情報について、千葉県と情報共有を図りながら、効率的に用地取得を進める。
②①に基づく取組み結果	事業主体である千葉県と連携を図った。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	都市計画道路3・4・5号線	意図（対象をどうするのか）	整備することで交通の利便性を向上させる。
②事務事業の概要	県道船橋我孫子線のバイパスとしての都市計画道路であり、市域東側の主動線を確保し、県が事業主体となり事業を施行する。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	南初富区間から新鎌ケ谷地区まで供用開始したことにより、県道船橋我孫子線のバイパスとしての機能を発揮することが求められている。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	地権者との交渉が難航し用地取得できなかった。

②成果を表す指標

	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
i	都市計画道路整備延長	12,169	12,169	12,169	m	業務取得
ii	都市計画道路整備率	33	33	33	%	業務取得
iii	「道路の状況」不満足度	—	—	—	%	市民意識調査

③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳		平成30年度予算
			金額（千円）	内容	
事業費（千円）	0	284			1,000
国支出金（千円）			284	市町村負担金	
県支出金（千円）					
市債その他（千円）					
一般財源（千円）	0	284			1,000

Ⅳ　評価・検討

①課題	境界が未確定の箇所があり、確定させる必要がある。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	7拡充
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		
③上記評価の理由	機能的な道路ネットワークの構築や利用者の利便性・安全性の向上を図るべく道路の完成を目指す必要性があるため。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	地元負担金
②計画に対する事業実績	地元負担金支出
③達成状況	完了
④未完了・非着手の理由	

平成29年度事業費の状況（単位；千円）

計画事業費	予算額			決算額		
1,000	1,000	当初	1,000	284	H28からの繰越	0
		H28⇒29繰越			現年分	284
		補正				
		流用・充当				
平成30年度への繰越額（単位；千円）				0		

平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	新京成線連続立体交差事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	322利便性の高い公共交通体系の充実	担当課室長	貞方　敦雄			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	計画下り線（津田沼方面　延長3,257m）について高架化を実施するとともに、都市交通の事業の進捗を図るため引き続き事業主体である千葉県及び関係機関と調整し必要な財源の確保を図る。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	全線高架化に向け、関係機関との調整を密にしながら事業を進める。
②①に基づく取組み結果	下り線の高架化を実施し、事業主体である千葉県及び関係機関と調整行い、必要な財源の確保を図った。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	新京成線高架橋	意図（対象をどうするのか）	関係機関と調整し、高架を実現させる（地元負担金を支払う）。
②事務事業の概要	本市の東西を走る新京成線を高架化し、踏切遮断による交通渋滞や市街地の分断等を解消する目的で、県が事業主体となり事業を実施する。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	新京成線の踏切遮断により交通渋滞が発生していることから、安全性、快適性のため踏切を早く除却する必要がある。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	津田沼方面下り線（延長3,257m）の高架化を実施した。

②成果を表す指標

	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
i	用地取得率(取得済/用地面積)	100	100	100	%	業務取得
ii	事業進捗率（事業費ベース）	84	72	78	%	業務取得
iii						

③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳		平成30年度予算
事業費（千円）	1,006,056	513,558	金額（千円）	内容	710,859
国支出金（千円）			512,850	県事業への負担	
県支出金（千円）					
市債その他（千円）	888,800	413,500			637,600
一般財源（千円）	117,256	100,058			73,259

Ⅳ　評価・検討

①課題	踏切による交通渋滞が多く、市街地が分断されている。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	7拡充
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		
③上記評価の理由	市内道路の渋滞解消に向け、早期完成が必要であるため。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成29年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成29年度の計画	負担金	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	県に負担金を支出した。	514,089	659,201	当初	514,089	513,558	H28からの繰越 112,400
③達成状況	完了			H28⇒29繰越	112,400		現年分 401,158
④未完了・非着手の理由				補正	32,004		
				流用・充当	708		
		平成30年度への繰越額（単位；千円）			144,240		

平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	都市計画道路3・4・10号中沢北初富線整備事業（中沢）	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	貞方　敦雄			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	都市計画道路用地と調節池用地の重複する箇所について、代替地を取得する。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	一級河川大柏川第二調節池整備事業の進捗に支障とならないように用地取得を進める。
②①に基づく取組み結果	用地取得に係る物件調査及び不動産鑑定委託を実施した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	都市計画道路3・4・10号線	意図（対象をどうするのか）	測量及び用地取得を行う。
②事務事業の概要	一級河川大柏川第二調節池整備事業の進捗に合わせ、都市計画道路の整備を図る。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	本市の中心部から市川への主要な道路として、当該都市計画道路の整備を一級河川大柏川第二調節池整備事業に合わせ一体的に事業を進めていく。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	用地取得に係る物件調査及び不動産鑑定委託を実施した。

②成果を表す指標

	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
i	都市計画道路整備延長	12,169	12,169	12,169	m	業務取得
ii	都市計画道路整備率	33	33	33	%	業務取得
iii	「道路の状況」不満足度	—	—	—	%	市民意識調査

③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳		平成30年度予算
事業費（千円）	78,724	1,197	金額（千円）	内容	28,778
国支出金（千円）			624	不動産鑑定委託	
県支出金（千円）			491	物件調査委託	
市債その他（千円）					
一般財源（千円）	78,724	1,197			28,778

Ⅳ　評価・検討

①課題	一級河川大柏川第二調節池整備事業との整備計画の整合を図ること。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	7拡充
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		
③上記評価の理由	一級河川大柏川第二調節池整備事業の進捗状況と合わせ周辺の一体的な整備が必要である。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成29年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成29年度の計画	用地取得	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	物件調査、不動産鑑定委託	29,975	29,975	当初	29,975	1,197	H28からの繰越 0
③達成状況	未完了			H28⇒29繰越			現年分 1,197
④未完了・非着手の理由	一級河川大柏川第二調節池整備事業用地と併せて購入する必要がりあり、年度内の完了に至らなかった。			補正			
				流用・充当			
		平成30年度への繰越額（単位；千円）					28,778

平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	新鎌ケ谷西側地区都市計画道路整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	貞方　敦雄			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	事業量を拡大するため国の交付金の導入を図り、用地取得を積極的に進める。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	事業推進のため、より多くの交付金を活用できるよう、関係機関との連携強化を図る。
②①に基づく取組み結果	交付金を導入し、用地取得を実施した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	都市計画道路3・3・16号線、都市計画道路3・4・10号線	意図（対象をどうするのか）	用地取得を行う。
②事務事業の概要	当該都市計画道路の整備により、新鎌ケ谷地区内に発生する集中交通を円滑に処理する。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	新鎌ケ谷特定土地区画整理事業により交通の発生集中が生じていることから、平成25年度から本事業を開始した。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果：用地取得を実施した。（A=123.48m2）

②成果を表す指標

	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
i	都市計画道路整備延長	12,169	12,169	12,169	m	業務取得
ii	都市計画道路整備率	33	33	33	%	業務取得
iii	「道路の状況」不満足度	—	—	—	%	市民意識調査

③事務事業のコスト

	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳		平成30年度予算
			金額（千円）	内容	
事業費（千円）	100,787	81,577			115,330
国支出金（千円）	38,985	43,006	15,600	用地購入費	60,600
県支出金（千円）					
市債その他（千円）	53,500	30,500			44,500
一般財源（千円）	8,302	8,071			10,230

Ⅳ　評価・検討

①課題	当該都市計画道路は東西にアクセスする道路がないため、早期に事業を進めていく必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	市内中心部の交通を円滑に処理し、道路利用者の安全性や利便性の向上を早急に図る必要性があるため。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成29年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成29年度の計画	用地取得	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	用地取得、物件調査、物件調査詳細設計委託	99,465	126,865	当初	99,465	81,577	H28からの繰越 28,163
				H28⇒29繰越	28,163		
③達成状況	未完了			補正			現年分 53,414
④未完了・非着手の理由	物件調査及び用地交渉に不測の時間を要したため。			流用・充当	−763		
		平成30年度への繰越額（単位；千円）			13,161		